

ゴラリオンへようこそ！

サンドポイントの街は君たちを必要としている！

何ポイントだって？ 砂がどうかした？ で、結局何だって？ この親しみやすい小さな海辺の街の名を聞いて、何が何だかわからなかったとしても——怖がることはない。この本を読めば何もかもすっかり書いてある。サンドポイントは、つまり、君の PC たちの新たなホームタウンなのだ。この街で彼らは友情を育み、鎧の最初の一着を手に入れ、初めて酒場に足を踏み入れ、最終的にはモンスターたちといざこざを起すというわけだ。まっさらな世界ゴラリオンで、まっさらなキャンペーンが始まる。ゴラリオンは、パスファインダー・クロニクル・キャンペーン・セッティング用のセッティングだ。君の PC たちの冒険の開始は、まさにサンドポイントを基点とする——というわけにはいかないかもしれない。が、ともあれヴァリシア内のサンドポイント周辺のどこかではあるはずだ。PC たちが失敗すれば彼らの親しい人々や同郷の人々は忌まわしい奴隷の運命に落とされる。が、彼らが成功したならば、その武勲は賢者達や王たちによって記録され、彼らの名声は永世のものとなる。さあ、パスファインダー・クロニクルの最新の英雄になりたまえ。

パスファインダーというセッティングの根幹を成すのは、以下のようなアイデアだ——英雄の武勲と悪漢どもの悪行が何世紀にもわたって生成され続ける書物に記録され続けた世界があった。歴史はすべて記録されており、よって世界中の出来事はすべて既存の何らかのパターンに従って起こることになるのだ。預言者と占い師は星の運行から未来を予測し、そして彼らの予言は未来に対して間違いなく信頼しうる予測図を描き出した。

しかし、1 世紀前に 1 柱の神が死んだ。誰もそれを予見せず、そして今や、古い予言は崩れ始めている。預言者たちは発狂し、占い師達は失われた未来を必死になって探り当てようとしている。世界は終わるのだと声を大にして叫ぶ人々が現われ、彼らはこの 100 年間、そう叫び続けている。が、現在、世界は変わらず存続している。ただ、物事の先行きが不透明になっただけである。ゴラリオンの未来は開かれており、新たな英雄の成功も失敗も、すべて受け止めるだろう。

なぜなら、そう、PC たちが思いもかけぬことを成し遂げる以上、世界は不透明にならざるを得ないのだ。彼らが次に何をするか、どんな預言者も、いかなる占い師も告げることなどできはしない。

道を見出す

『パスファインダー』(道を見出すもの)では、完全なキャンペーン・シナリオを提供する。それぞれのシナリオは 6 ヶ月続きのシリーズとなる。1 巻ごとに、冒険の新たな

1 章、各種アドバース、そして冒険やゴラリオンの世界を豊かにする種々のマテリアルが掲載される。また、『パスファインダー生物誌』では、毎号少なくとも 6 種の新たなモンスターを紹介する。しかし、誌面の大半は冒険シナリオに当てられる。まずは 1 レベルキャラクター用の冒険シナリオ、『炎の奉獻』から開始するでしょう。本シナリオで PC たちが立ち向かうのは素朴な街に襲い掛かるゴブリン一族や太古の魔物で、この事件のために彼らは突如として街の英雄の役割を担うことになるのだ。

デザイナーズ・ノート

『炎の奉獻』をはじめとするパスファインダーの冒険シナリオにはすべてデザイナーズ・ノートが付記されており、これを読めばデザイナー自身による示唆を得ることができる。ノートには、新たな事実や GM への示唆、独り言的あれこれ、その他ゲームの運用をより用意にし、また冒険を楽しいものにするための付随情報を通して、“シーンの裏側”のライターの意図を記載していく。

『炎の奉獻』や、この号に掲載されたその他のマテリアルについて読み通したら、次は paizo.com を見てみていただきたい。ここでは我々が提供する冒険について活発な意見交換がなされている。我々はスレッドを維持するようつとめるつもりだ。そして君は多くの仲間達が掲示板に書き込んでいるのを知ることになるだろう。君がパスファインダーとそのシナリオについて感じていることを我々と、また他の GM やプレイヤー達と共有するにはこれが最上の方法だろう。また、『ルーンロードの復活』(あるいはその他すべてのパスファインダー・シリーズ)を他の各種キャンペーン・セッティングにコンバートする方法についての、読者諸君からの数々のアイデアをチェックするにも、これが最も良い方法だろう。また、paizo.com には我々のブログも置いてあり、そこには今後のプロダクトに関するプレビューや編集部での裏話等が投稿されている。以下の“ゴブリンに関する興味深い 10 の事実”は以前このブログに掲載したものだが、これは『炎の奉獻』を遊ぶのにはなかなか重要な資料となるので、ここにも再掲する。お好みなら“ゴブリン十戒”として考えてくれてもいい。ところで当然の事ながら、こんなことが明文化されているなぞ、ゴブリンどもはまったくあずかり知らぬこと。ご愁傷様、というわけだ！

ゴブリンに関する興味深い 10 の事実



1. **馬嫌い:**ゴブリンは動物をたいへん巧みに乗りこなすが、馬だけはからっきしだ。実のところ、彼らの馬嫌いは、近づきすぎようものなら踏み潰してくる馬という生物を彼らが恐れていることに由来しているのだが。
2. **犬嫌い:**実際、ゴブリンどもはネズミじみた顔をしたゴブリン・ドッグ(これは俗称である)と呼ばれる恐るべきクリーチャーを乗騎として用いるのだが(もし手に入れられればウルフやウォーグにも乗る——そしてウルフは間違っても犬じゃないと断言する)、馬を嫌うのと同様にごく普通の犬も嫌っている。ちなみに犬もゴブリンを嫌っている。もし君の犬が薪の山に向かって訳もなく吠え立て始めたら、そのどこかにゴブリンが震えながら隠れている可能性がある。
3. **ゴブリンはゴミ捨て場を襲う:**ゴミ捨て穴、どぶ、下水……くず物があるところならどこでも、その近くにゴブリンがいる可能性がある。ゴブリンたちがくず物から武器や防具を作り上げる腕前といったら凄まじいもので、彼らは人間が捨てたもので人間を殺すのが大好きなのだ。
4. **ゴブリンは歌が大好き:**不幸なことに、彼らのキャッチーなセンスは、お上品な社会にはちょっとばかり受け入れがたいものなのだが。
5. **身を隠すのがうまい:**興奮したり怒り狂ったりしているゴブリンは、騒がしく喚きたて、牙をむいて襲ってくるが、そのような状態にあってさえ、彼らは心臓がひとつ打つか打たないかのうちに沈黙し身を潜めることができる。そこへもってきて彼らはたいそう小柄なので、彼らは思ってもいないところに隠れ潜む技術に長けているというわけだ。たとえば薪の山の中とか、雨水桶とか、丸太の下とか、鶏籠の中とか、オーブンの中とか……
6. **ちょっとオカシイ:**ゴブリンはオーブンの隠れ場所にいいなどと実際に考えるわけだが、彼らの思考論理がめちゃくちゃなのはそこからよくわかる。そのうえ彼らはひとつのことをきちんと考えることができない。きらきらするものを目にしたり、食べられそうな小動物を見つけてしまったりしたら、特に。
7. **大喰い:**食料が十二分にあれば、ゴブリンは1日に十二回近く食事をする。そしてほとんどのゴブリンの部族では十分な食料など持ち合わせていないので、彼らはしょっちゅう略奪をしているのである。
8. **火が好き:**ゴブリンは何か燃えているのが大好きだ。とはいえ、彼らは自分たちの棲み処では火の元にたいそう気を使う。刺だらけの植物の藪に住み、乾いた木の葉の寝床に寝起きているなどというときには特に。が、ほかの誰かの住処の前でゴブリンに松明を持たせたとすれば——まあ、困ったことになる。
9. **積み重ねるのが簡単:**ゴブリンはやせっぽちだが頭が大きい。そして窮屈な棲み処にすんでいる。時には過剰に窮屈な場所に。
10. **物を書くと魂を抜かれると信じている:**ゴブリンの棲み処の壁や、ゴブリンが襲った街の跡には、彼らの“偉業”を現わす絵が描かれている。が、彼らは決して“文字で書く”ことをしない。これは偶然そうになっているわけではない。文字を書くことで、言葉は頭から抜き出されてしまい、決して取り返すことはできないのだ。